

## 平成21年度第1回鳴門市地域公共交通会議概要

**日 時**：平成21年6月23日（火）10時00分～10時55分

**場 所**：鳴門市役所本庁舎3階会議室

**出席者**：別紙

**傍聴者数**：2人

### 会議次第

1. 開会
2. 議事
  - (1) 鳴門市地域バス実証運行（1月～5月）の報告について
  - (2) 鳴門市地域公共交通総合連携計画策定について
  - (3) その他
3. 閉会

### 会議の概要

1. 開会  
10時00分、開会。
2. 議事
  - (1) 鳴門市地域バス実証運行（1月～5月）の報告について  
運行開始（平成21年1月1日）から現在（5月末）までの実証運行の状況を、事務局より説明。

〔乗車人数について〕

委員より、乗車人数が増えてきている理由について質問があり、事務局より、分析としては、周知の効果もあるが気候によるものと考えている。3月は春休み期間中であまり増えていないが、4月に入り学校が始まったことや、気候も良くなったことから乗車人数が増えたのではないかと回答した。

- (2) 鳴門市地域公共交通総合連携計画策定について  
鳴門市地域公共交通総合連携計画策定について、事務局より説明。

〔調査対象について〕

委員より、調査対象が5,000世帯では、撫養周辺が主となると思うが、他の地域はどうするのかという質問があり、事務局より、撫養地区に限ったものではな

く、路線の周辺部、その他の地域も含めて、市内全域を対象としたアンケート調査の実施を考えている。詳しい実施方法等については今後検討していくと回答した。

それに対し委員より、一人暮らしの世帯やお年寄りのご夫婦の世帯といったことに関係なく抽出するののかという質問があり、事務局より、原則は路線の周辺部・その他の地域を配分したその中から抽出したいと考えていると回答した。

#### 〔調査方法について〕

委員より、調査表の配布方法について、郵送して郵送回収では2～3割しか返ってこないが、配布を町内会の人にお問い合わせすると8割くらい、訪問すると5割くらい返ってくる傾向があるという意見があり、事務局より、配布の方法や回収の仕方についてはご意見も参考にして検討していくと回答した。

委員より、アンケート調査について、できるだけデータが多くなるようにすることと、バスに乗って利用者にアンケートするのと、住民に配布するアンケートについて、全て同じでなくてもいいが、肝心なところは似た内容にしておき、2つを連携できるようにしておく必要があるのではないかという意見があった。

#### 〔路線再編・新設のための仕組み、ルール構築の検討について〕

委員より、公共交通のPR方法として、モビリティマネジメントということで、普段バスを利用しない方に対して、個別ニーズに応じてPRすることで、新しいユーザーを増やしていく。あるいは、最近の60歳くらいの方の多くは免許を持っているが、場合によっては車に乗らずにゆっくりとバスに乗って動きたいというニーズも出てきているので、そういう方々への対策も考えてはどうかという意見があった。

委員より、今ある市営バスについても、どうしたらより有効利用ができるかも考えてほしいという意見があった。

委員より、この計画で行う路線編成のときに、現在の循環バスについて逆回りはできないかという質問があり、企業局より、現在、循環バスは左回りで一定時間がくれば乗れるが、逆回りで反対側のバス停も利用するとなると、待っていた反対側にバスが来た場合に、道路の横断など交通安全上の問題とともに、コストの面でも双方の循環は難しく、利便性などから将来的には考える余地はあるかと思うが、やはり現状は難しいと説明があった。

委員より、今の市バスの最終便の運行状況について質問があり、企業局より、19：30の北泊行きが最終便で、以前は遅い時間もあったが、利用者が1，2人で、公共性を考えると必要な便ではあるが、コスト面から見ると運行していくのは難しく、最終便が早くなっていると説明があった。

それに対し委員より、飲酒運転の罰則が非常に厳しくなっており、飲み会などに行くときに、バスで行く方法も考えられるような便を設定してはどうかという意見があり、企業局より、公共交通機関の発達しているところでは、バス・汽車等で通勤の方が、帰りにお酒を飲む機会も多くあると思うが、鳴門のようなほとんどが車で通勤しており、そういう機会自体がそう多くない状況の中で、そのために1便走らせるコストをかけるよりも、朝などの利用者の多い時間に走らせるほうがより効率的ではないかという考え方のもとに、現在の編成にしていると説明があった。

加えて委員より、鳴門の場合は、引田方面、大麻方面、どちらも循環できないためコスト面でも難しく、以前は最終便が9時くらいにあったが、利用者の減少等によって早まったと説明があった。

委員より、今あるバスを「こういうふうに使える」というPRをしたり、汽車の時間にあわせるとなどいろいろと考えてほしいという意見があり、企業局より、いろいろな利用形態を考えた上で、どういうPRをすればいいのか検討していくが、少しでも多くの方が利用する状況にならないと、それに合わせて新たに走らせることは難しいと説明があった。

委員より、公共交通会議の当初に、粟津線で、観音寺の西まで入れないか検討した時に、入ることは難しいということだったが、現在のように車が小さくなれば、観音寺の西側にある市所有の空き地で十分回転できるので、もう一度検討してほしいという意見があり、事務局より、粟津方面は本年1月から地域バスが実証運行しており、今後、実証運行する中で利用者や地域の方からいろいろなご意見を伺い、路線見直しなどの際に可能な限り取り入れたいと考えているので、1つのご意見として参考にしたいと回答した。

委員より、桑島の図書館のほうに入ってくる便があれば、その周辺で利用もあるだろうし、そういう要望もあるという意見があり、企業局より、図書館への便は、現在、市営バスはなく、地域バスの高島線が走っているが、以前市営バスが運行していたときも高島線の数便しかなく、やはり利用者は湊岩のほうの利用が多く、観光情報センターの経由といった関係もあり、図書館のほうへは入っていなかった。ただ、図書館は、循環バスや北泊線、引田線にしても、黒崎バイパス、それから県道からもそんなに距離はないので少々歩かなければならないがご辛抱頂いている状況であると説明があった。

### (3) その他

委員より、この公共交通会議は、市営バスを廃止することを目的とした会議ではないことを、委員にも行政側にも再度認識してほしいという意見があった。

委員より、インフルエンザ対策について、あまり過剰にならないほうがいいのではないかという意見があり、企業局より、バスは不特定多数の方が乗るので、感染

された方が乗ってきた場合に乗務員が罹患してインフルエンザを広めることを防ぐために乗務員にはマスクをさせたが、利用者に対してはマスクを着用するように周知はしていない。あまり過剰反応しないようにしていたが、県内で患者が発生したのを契機に着用させて、10日ほどで着用は止めたと説明があった。

委員より、今後予想される第2波への対応を考えておく必要があるのではないかという意見があった。

事務局より、市ホームページへの議事録公開について報告した。

### 3. 閉会

会長より、今回の協議内容について地域公共交通会議として認めることとする旨の発言をもって閉会した。

10時55分閉会。

## 平成21年度第1回鳴門市地域公共交通会議出席者

### ・委員(欠席1名)

鳴門市自治振興連合会会長	林 一重	
鳴門市社会福祉協議会会長	多智花 亨	
鳴門市PTA連合会会長	小西 努	
鳴門市老人クラブ連合会会長	山尾 秀男	
鳴門市企業局次長	田村 豊	
徳島バス(株) 常務取締役兼営業部長	吉岡 正俊	
(社) 徳島県バス協会専務理事	関本 正康	
徳島県タクシー協会(鳴門第一タクシー(有) 取締役)	長尾 春代	
鳴門市交通労働組合委員長	江澤 邦弘	
国土交通省四国運輸局徳島運輸支局首席運輸企画専門官	佐野 満	
鳴門市副市長	平野 悦男	会長代理
鳴門市企画総務部長	左倉 昇	
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所徳島国道出張所長	新池 保徳	
徳島県鳴門警察署交通課長	齋藤 茂	
徳島県県土整備部運輸政策総局交通政策課課長補佐	中西 洋一	
徳島大学大学院教授	山中 英生	会長

### ・説明のため出席した者

鳴門市企画総務部総合政策局長	岡島 睦郎	
鳴門市企画総務部総合政策局企画調整課長	満壽 良史	事務局長
鳴門市企画総務部総合政策局企画調整課副課長	竹田 仁伸	事務局
鳴門市企画総務部総合政策局企画調整課主事	吉川 美由紀	事務局
鳴門市企画総務部総合政策局企画調整課主事	横手 史和	事務局